

本願寺 御歴代門主シリーズ

その一

本願寺第二代宗主

如信(によしん)上人(一二三五〜一三〇〇年)

如信上人は文暦(ぶんりやく)二年(一二三五)親鸞聖人のご長男善鸞(ぜんらん)のご子息として親鸞聖人が六十三歳のときに誕生されました。

幼少のころから二十歳頃までは聖人の傍らにて薫育を受けられました。その後、父である善鸞が関東地方での異義を正すため東国に向かわるのに同行されましたが、父善鸞は関東の地にて独自の異義を唱えたため、聖人から義絶を申し渡されました。

しかし、如信上人は「聖人の教えを的確に継承した面授の弟子」の一人として『親鸞聖人門侶交名帳(しんらんしよう)』に「んもんりよきようみようちよう」に名を連ねています。

如信上人は主に関東で教化を続けられ、そのご旧跡として陸奥国(福島県)白川郡大網の願入寺や常陸国(茨城県)久慈郡太子町上金沢の法龍寺などが伝えられています。

上人は親鸞聖人の廟堂の留守職(後の門主職)にはつかれませんでした。第三代覚如(かくによ)上人は本願寺を公称し血脈の正当を示



本願寺第二代宗主 如信(によしん)上人

されるに当たり、開祖を親鸞聖人・第二代を如信上人・第三代に自身を位置づけ、「三代伝持の御影」を作製して門徒に示されました。

上人は京都大谷(本願寺)で行われる報恩講には努めて上洛され、上洛した折には大谷の覚恵(かくえ)・覚如上人父子に親鸞聖人の教えを説かれたと伝えられています。

また、覚如上人の伝記絵巻である『慕帰絵(ぼきえ)』・『最須敬重絵詞(さいじゆきょうじゆえことば)』には、覚如上人が二十歳のころ、父覚恵とともにおよそ二年間にわたって関東を巡拝をされたとき、如信上人と親しく接見されたことが記されています。上人は正安(しようあん)二年正月四日(旧暦)ご往生されました。

※参考文献

福間光超著「親鸞聖人と本願寺の歩み」(永田文昌堂)

今後の法要スケジュール

「宗祖聖人月忌」

門信徒祥月命日法要」(善教寺本堂)

二月 十六日(土) 午後一時半〜

*毎月十六日に本堂において勤めております。

「仏教婦人会報恩講」(善教寺本堂)

三月 八日(金) 追悼法要：午後一時半〜

昼席：午後二時〜

九日(土) 朝席：午前十時〜

総会：午後一時半〜

昼席：午後二時〜

講師 足利孝之師(兵庫県尼崎市 安養寺)

*送迎マイクロバスを運行します。

*仏教婦人会主催法要

*仏婦会員追悼法要・仏婦総会開催

「柏原春季彼岸会」(柏原説教堂)

三月二十一日(木) 昼席・夕席

二十二日(金) 朝席・昼席

講師 武田義香師(西条町助実 教正寺)

ご縁に感謝

善教寺ホームページ『縁』 <http://www.otera.or.jp/> メール zenkyo@otera.or.jp